

平成 17 年 7 月 28 日

各 位

東燃ゼネラル石油株式会社
東京都港区港南一丁目 8 番 15 号
代表取締役会長兼社長
ジー・ダブリュー・ブルーシング
(コード番号: 東証一部 5012)
問合せ先:
エクソンモービル有限会社
広報渉外部
Tel: 03-6713-4400

東燃ゼネラル石油(株)平成 17 年 12 月期 中間業績予想修正に関するお知らせ

平成 17 年 2 月 28 日に公表した平成 17 年 12 月期 中間期(平成 17 年 1 月 1 日～平成 17 年 6 月 30 日)の連結および単体業績予想を下記の通り、修正致しましたので、お知らせします。

1. 平成 17 年 12 月期 中間業績予想

連結業績予想 :

(単位: 億円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	11,600	330	330	200
今回修正予想 (B)	13,249	220	239	148
増減額 (B-A)	1,649	-110	-91	-52
増減率 (%)	14.2	-33.3	-27.6	-26.0

(A)平成 17 年 2 月 28 日発表

単体業績予想 :

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	11,700	240	240	130
今回修正予想 (B)	12,949	120	151	92
増減額 (B-A)	1,249	-120	-89	-38
増減率 (%)	10.7	-50.0	-37.1	-29.2

(A)平成 17 年 2 月 28 日発表

2. 修正の理由

平成 17 年 12 月期の中間期連結売上高は本年 2 月に発表した前回予想より 14.2%増加し、1,649 億円の上方修正となり、13,249 億円となる見込みです。これは、主に、原油価格の大幅な上昇を反映した石油製品卸売価格の上昇によるものです。

中間期連結営業利益は、前回予想より 110 億円減の 220 億円となる見通しです。今回の修正は主に以下の要因によるものです。

(1) 石油化学製品マージンの増加

引き続き活発な石油化学製品の需要を反映し、オレフィン、ベンゼン、パラキシレンを中心とした主要生産品目のマージンは、本年 2 月時点での予想を上回る見通しです。

(2) 石油製品マージンの大幅な低下

石油製品マージンは上半期(1-6 月)における原油価格の大幅な上昇により、本年 2 月時点での予想よりも大幅に低下しました。石油業界では、一般的に原油調達コストを原油がわが国に到着した時点で認識するのに対し、当社は積荷時点でこれを認識するため、上半期(1-6 月)の原油価格の上昇を他社よりも約 1 ヶ月早く認識することになります。こうした要因により、期中の原油価格の急騰(ドバイ原油ベースでバレルあたり 19.9 ドルの上昇)が上半期(1-6 月)の業績に全て反映されました。この影響は本年 2 月時点での予想並びに石油業界で一般的に採用されているコスト認識方法(到着ベース)と比べ、ドバイ原油ベースで約 260 億円と算定されます。

(3) 在庫評価の影響

本年 2 月時点での予想では、在庫評価の影響を見込んでいませんでしたが、後入先出法に基づく低価法による在庫評価の結果、160 億円の評価益が発生し増益要因となりました(キャッシュフローへの影響はなし)。この評価益により、石油製品マージンの大幅な低下を一部相殺しています。

通期業績予想に関しては、8 月の中間決算発表の時点で再度、検討いたします。

配当予想

一株当り年間 36 円の 2005 年 2 月時点の配当予想は変更いたしません。

以上